

## 大分空港海上アクセス旅客ターミナル建設工事設計者選定の結果について

令和 3年 2月 24日

大分県土木建築部施設整備課

大分空港海上アクセス旅客ターミナル建設工事の設計者を選定する公募型プロポーザルについては、17者からの応募がありましたが、この度、下記のとおり最優秀者と次点者を選定しましたのでお知らせします。

多くの方からいずれも意欲溢れる清新な提案を寄せていただいたことに、心から感謝いたします。

### 1. 実施経緯

- 第1回選定委員会開催 令和2年12月15日(火)
  - ・委員長、副委員長を選出し、実施要領、審査方法を決定しました。
- 公募の開始 令和2年12月21日(月)
- 参加表明書の提出期限 令和3年1月21日(木)
  - ・17者から参加表明書の提出がありました。
- 第1次審査図書の提出期限 令和3年1月29日(金)
  - ・17者から図書の提出がありました。
- 第1次審査 令和3年2月9日(火)
  - ・提出のあった17者の提案書その他の書類を審査し、6者を選定しました。
- 第2次審査 令和3年2月19日(金)
  - ・プレゼンテーションとヒアリングに基づき審査し、最優秀者と次点者を選定しました。
- 審査結果の公表 令和3年2月24日(水)

### 2. 選定委員(敬称略)

- 委員長 島岡 成治(日本文理大学工学部 教授)
- 副委員長 鈴木 義弘(大分大学理工学部 教授)
- 柴田 久(福岡大学工学部 教授)
- 桑野 和泉(ツーリズムおおいた 筆頭副会長)
- 高屋 博(大分県企画振興部長)
- 湯地三子弘(大分県土木建築部長)
- 森迫 常德(大分県農林水産部審議監)

### 3. 審査経緯

審査は、公募型２段階プロポーザル方式で行い、第１次審査では、実施要領に定める審査基準に基づき、独創性、経済性、機能性、的確性及び実現性並びに取組意欲、実施方針の妥当性、確実に業務遂行可能な取組体制を審査し、応募のあった１７者の中から、次の６者を選定しました。

特定JV名
青木茂建築工房・高橋由美建築設計設計業務委託共同企業体
坂茂建築設計・東九州設計工務設計業務委託共同企業体
藤本壮介建築設計事務所・松井設計設計業務委託共同企業体
松田平田・大有・矢野設備設計業務委託共同企業体
NASCA+partners 設計業務委託共同企業体
有限会社 SANAA 事務所 松田周作建築設計事務所設計業務委託共同企業体

(五十音順)

第２次審査では、プレゼンテーションとヒアリングを行い、第１次審査の内容を再確認したうえで、総合的に審査し、上記の６者の中から最優秀者、次点者を選びました。

最優秀者は大分空港海上アクセス旅客ターミナル建設工事の基本・実施設計の候補者として特定し、次点者は予備候補者としてしました。

- ◆最優秀者 藤本壮介建築設計事務所・松井設計設計業務委託共同企業体
- ◆次点者 坂茂建築設計・東九州設計工務設計業務委託共同企業体

#### 4. 選定委員会講評

本プロポーザルは、大分空港海上アクセス旅客ターミナルの整備にあたり、豊かな独創性と優れた設計能力を有する設計者を選定する目的で実施されました。

提出図書の作成期間が短く、また、敷地や施設条件等の制約が多い中で、17者から提案をいただきました。いずれも意欲溢れる清新な提案をいただき、選定委員会として心から感謝申し上げます。

##### (1) 全体講評

実施要領で示したテーマ及びコンセプトに対して、利用者の動線に配慮した配置計画や良好な景観を形成する外観など、多様な提案がなされました。

特に、西大分側では、本県の玄関口としてふさわしいランドマークを意識した独創的なデザインや先進的な構造計画について多くの提案があり、提案者の意欲・熱意が感じられました。

また、アジア唯一となるホーバークラフトの魅力や別府湾岸の自然景観に配慮しながら、ターミナルと周辺の空間を一体的に利用した新たな賑わいの創出について、積極的な提案が多かったことも全体的な特徴です。

さらに、県産材・地域材利用では、木構造や他構造とのハイブリッドによる提案とともに、意匠的にも優れた活用手法など、バリエーション豊かな提案がなされました。

空港側のターミナルにおいても、西大分側とのコンセプトやデザインの統一を図るとともに、空港利用者にホーバークラフトの魅力を伝える提案や、県産材・地域材の活用を図る提案が多くなされました。

第1次審査では、実施要領に定める審査基準に基づき、独創性、経済性、機能性、的確性及び実現性並びに取組意欲、実施方針の妥当性、確実に業務遂行可能な取組体制を審査し、総合的に優れた6者を選定しました。

第2次審査では、プレゼンテーションとヒアリングを行い、提案内容と設計理念についての理解を深めるとともに、施設の機能性や周辺空間における賑わいの創出など、県民や国内外の来訪者を迎え入れる本県の玄関口としての的確性について審査を進め、最優秀者と次点者を次のように選定しました。

##### (2) 個別講評

###### ◆最優秀者

###### 藤本壮介建築設計事務所・松井設計設計業務委託共同企業体

西大分地区のベイサイドエリア一帯と調和する外観と敷地計画となっており、周りの場所の魅力を感じさせる新たなランドマークの提案となっています。

特に、ターミナルは、宇宙港となる大分空港を象徴し、なだらかに空へと向かって上昇する外観の下、大分県原風景である杉林をイメージした屋内・屋外スペースが計画され、見

る人が思わず足を運び、美しい別府湾を感じたくなるような姿が意図されています。

敷地配置計画については、ターミナル機能、イベントスペース、二次交通への乗場等が一体的に計画されており、また、公共交通と一般車両の動線が合理的に区分され、二次交通への円滑な乗り換えができるなど、利用者にやさしいターミナルとなっており、総合的に最も優れた提案と判断し最優秀者としました。

#### ◆次点者

##### 坂茂建築設計・東九州設計工務設計業務委託共同企業体

かつて世界と交易した大分港の歴史と宇宙港となる大分空港の未来をつなぐ、それぞれの特徴的なデザインは、非常にシンボル性が高く、別府湾岸の新しいランドマークとなる提案となっています。

また、ターミナルは、西大分側は竹の集成材による吊構造を採用し、国東側は木製分子構造のドーム形状とするなど、自然の素材と新しい技術を使った革新的で魅力的なデザインとなっています。

加えて、太陽光発電や海水熱利用など、自然エネルギーによるパッシブな環境制御の導入など、優れた提案となっており、次点者としました。